

2022 年度学童保育ひろば in 尾張旭レポート

“いっしょに子育て学童保育” ～子どもを真ん中に～

【クラブ】（ 風の子クラブ ）

【名 前】（ 川原郁美 ）

ひろばが始まる前までは、テーマを見て、保護者と指導員が子どものためにできることや、子育てを一緒にするとはどういうことか、保護者と指導員がどうかかわっているのかを話しあえると思っていたのですが、だんだんと話が運営側の小難しい話になっていき、私にはまだ知らないこと、わからないことだらけで難しかったです。でも、いろいろな運営の仕方があることや、保護者会がないところもあるということを知ることができるいい機会でした。

「いっしょに子育て」というワードについて、今の自分の保育について、私なりに考えてみました。一番に思いついたのは、“保護者も指導員も、子どもを見守り育てる大人の一人として、学童保育でのようすや、家庭でのようすで気づいたこと、気になることを共有して考え合っていくこと”です。これは、どこまで学童保育でのようすを伝えるのか、家庭でのようすにどこまで踏み込んでいいのかなど配慮すべきこともあり、とても難しいことだと思いますが、子どもを真ん中に見ていくうえで必要なことだと考えました。普段からお迎えのときには、どんな遊びをして過ごしていたとか、怪我や体調のこと、新しくできるようになったこと、ちょっといつもと違うようすだったことなどを、保護者に話すようにしています。そこから、家庭でのようすや、家庭でどう生活しているのかを聞くことができることもあり、保護者とコミュニケーションをとるには、自分から話をしていくことが必要だと思っているからです。

分割運営が始まったことで、一度にみる子どもの人数が減りました。これまでよりも、子ども一人ひとりをみられるようになると思います。子どものさまざまなようすに気づくことができる観察眼を養うとともに、保護者への上手な伝え方、コミュニケーションのとり方を習得して関係性を築き、いっしょに子育てをしていきたいなと思います。